

憂楽帳



突然、目の前に現れた1羽の野鳥に心を奪われた。青く輝く背中に鮮やかなオレンジ色の胸。鳥の名はカワセミだった。一年半ほど前、東京・世田谷の川沿いを散歩していた際のことだ。それ以来、この鳥を探すのに夢中になっている。明治神宮など都心にも姿を現している。実は、東京からカワセミが姿を消した時期がある。都市鳥研究会代表の川内博さん(70)によると、当たり前のように観察されていた明治神宮内の池で1964年から見られなくなったという。

都心のカワセミ

この年に行われたのが東京五輪。急激な都市開発の半面、環境破壊が進み、街中の川や池にカワセミのエサとなる魚などがすめなくなっただ。「この時期から東京のほぼ全域でカワセミが姿を消したと考えています」と川内さん。その後、環境への配慮から水質改善も進み、再びカワセミが都心に戻り始めたが、約20年の月日がかかったという。

来年、再び東京五輪が控える。愛らしい都心のカワセミの姿は、55年前の「教訓」を伝えようとしているようにも映る。

【高山祐】